

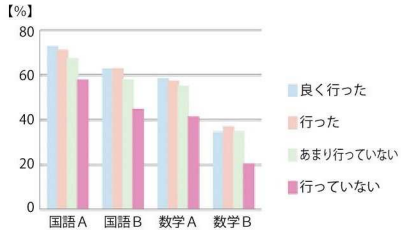
平成 27 年度「全国学力・学習状況調査」結果

平成 27 年 4 月 21 日（火）、全国の小学校 6 年、中学校 3 年を対象にした「全国学力・学習状況調査」が行われました。学力面では、例年行われている国語と算数（数学）に加えて理科（平成 24 年度から 3 年に一度実施）、学習状況面では、生活習慣・学習習慣についての調査が行われました。

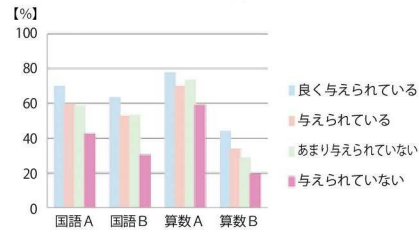
◆どのような調査？

- ① **A 問題（知識に関する問題）**：知識・技能等がどれだけ定着しているかを測る問題
 - ② **B 問題（活用に関する問題）**：知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力を測る問題
- ※ 理科は、A・B 問題が混在しています。
- ③ **児童・生徒質問紙**：学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問
 - ④ **学校質問紙**：指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問

平均正答率と話し合い活動（中学校）

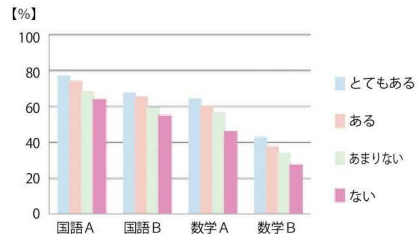


平均正答率と発表の機会（小学校）

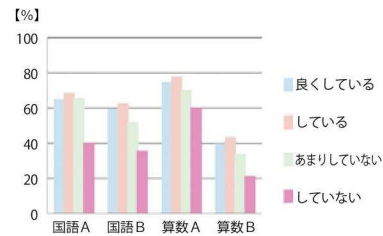


◆学校における指導と学力の関係は？

平均正答率と地域・社会への関心（中学校）

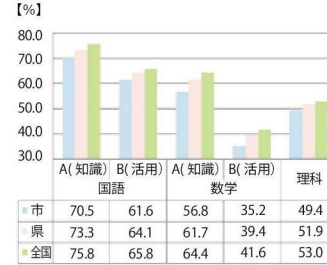


平均正答率と家族との会話（小学校）



◆家庭や地域と学力の関係は？

中学校の正答率比較



小学校の正答率比較



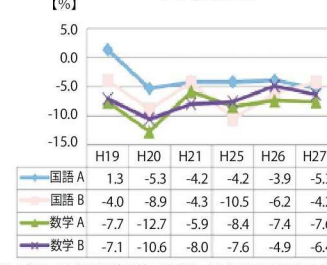
◆志布志市の子どもたち：学力はどうなの？
平成 26 年度と比較して、全国平均を上回っている学校数は多くなりましたが、市の平均としては、知識・技能に関する問題、活用に関する問題とともに全国平均を下回っています。

◆「確かな学力の定着」のため
ごどのようにすればいいの？
今後、志布志市の児童生徒の「確かな学力の定着」を図っていくためには、「豊かな人間性」「健康・体力」といった知・徳・体をバランスよく育成することが大切です。
そのためには、学校、家庭、地域が連携を図りながら子どもたちの教育を推進していくことが大切です。
以下に、教育委員会・学校・家庭・地域で取り組んでいくことについて挙げてあります。子どもたちの健全な育成のために、それぞれの立場でできることに取り組んでいただくことが「確かな学力の定着」につながると考えます。

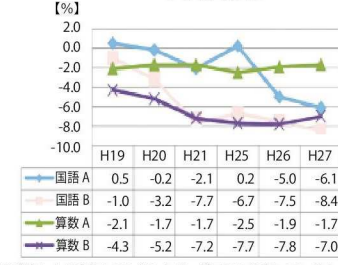
◆その他にどのような回答をした児童生徒の正答率が高かった？
●朝食を毎朝食べている。
●メールやインターネットを利用する時間が少ない。
●家で計画を立てて勉強している。
●ニュースを見る。
●物事をやり遂げて、嬉しかった経験がある。
●難しいことでも失敗を恐れず挑戦する。



中学校の推移



小学校の推移



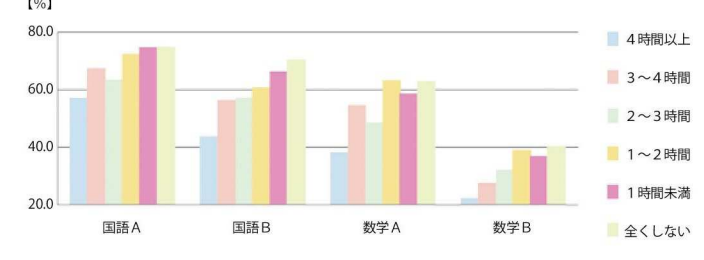
※平成 22・24 年度は抽出校のみ実施、平成 23 年度は東日本大震災の発生により実施していないため、グラフから省いています。

◆これまでの結果と比べて：
どうだったの？
小学校では、算数の知識・技能は定着していますが、国語で全国との差が広がっています。中学校では、数学に課題がありますが、国語の活用では、全国との差を縮めています。

- 教育委員会は：
 - 研究授業での指導・助言
 - 「確かな学力の定着に向けた検討委員会」による方向性の協議
 - 道徳教育の推進
 - 「家庭教育・子育てリーフレット」活用
 - 志学教室の実施（中学生対象の土曜学習教室）
 - 小書補、特別支援教育支援員の配置
 - キラリ輝く「しゅしゅ子」育成事業の推進（土曜日の体験広場）
 - 学校は：
 - 校内研修の充実と授業改善
 - 「学力向上アクションプラン」による全校体制での取組
 - 幼稚園・保育園・小学校・中学校の連携
 - 各種学力調査結果の活用
 - 家庭は：
 - 基本的な生活習慣の確立
 - スマホ等、電子機器「守ります！9時オフ」
 - 家庭でのコミュニケーションの機会を創出
 - 子どもの良さをほめる
 - 地域は：
 - 子どもたちの見守りや声かけ
 - 地域人材活用への協力



中学生の平均正答率とゲーム時間【PC・スマートフォン・携帯型】



◆メディアと学力の関係は？
パソコン、スマートフォン、携帯型等のゲームに費やす時間が少ないほど平均正答率が高い傾向にあると言えます。小学校でも同じような傾向が出ています。